

## 霧島東神社

霧島東神社は、高千穂峰の東側を半分ほど登ったところにあり、古代の森に囲まれています。

この神社は、伝説上の日本の第十代天皇、崇神天皇の時代に建立されました。1722 年に全体が建て直されたこの神社の建物は、その後も時折修復され、最近では 1997 年に工事が行われました。

高千穂峰の山頂は神社の敷地の一部です。神社の宝物のひとつである伝説の槍、天之逆鉾（あまのさかほこ）は、太陽の女神アマテラスオオミカミの孫で、日本の初代天皇の曾祖父である神ニギノミコトがここに突き立てました。

霧島の山々は、修験道の信者の修行の場として昔から崇められてきました。修験道は、山岳信仰、仏教、神道、道教を組み合わせた古代の禁欲的な宗教です。修験道は、霧島の山中で 4 年間で過ごした仏僧性空（910～1007）の影響により、霧島に関連づけられています。後に、性空はこの地に建てられていた神社の近くに寺を建立し、その寺には修験道の修行者が集まるようになりました。

## 性空像

性空（910–1007）は、霧島の山で 4 年を過ごし、寺を創建した、尊敬される仏僧でした。2006 年に没後千年を記念して公開されたこの像は、性空が霧島に到着したときの姿に似せて彫られました。

## 伝説の槍「天之逆鉾」

日本の国土創世にまつわる神話によると、天之逆鉾は、神イザナギノミコトと女神イザナミノミコトによって、原初の海をかき混ぜ、世界で最初の島を作るために使われました。太陽の女神アマテラスオオミカミの孫であり、日本初の天皇神武天皇の曾祖父であるニギノミコトは、天から高千穂峰に降りたときに天之逆鉾を使いました。高千穂峰山頂にある大きな青銅の槍の本当の起源は不明ですが、江戸時代（1603～1867）の文書にこの槍についての記載が残っています。

## 社紋

霧島東神社の社紋は仏教の車輪で、これは、神社が現在は廃院となった寺、錫杖院と敷地を共有していたことの名残です。錫杖院と禁欲的な山岳信仰「修験道」は、どちらも明治初期（1868

～1912) の神仏分離政策によって廃止されました。仏教の紋章を使用する神社は非常にまれで、この社紋は霧島地域における 2 つの宗教の間の密接な関係を示しています。